

例題

CD  
06

まず、選択肢を見てみましょう。

(1) 05年 秋

- ① Non, il travaille.    いいえ、彼は働いています。  
② Si, il est étudiant.    いいえ、彼は学生です。

(ヒント) ②が解答になるには、否定の疑問文が聞こえてくるはず。さて、否定疑問文が流れてきますか……？

(2) 02年 春

- ① Oui, beaucoup.    はい、とても。  
② Oui, je vais bien.    はい、元気です。

(ヒント) これはどちらも oui と応じていますから、聞こえてくる動詞がキーになりそうですね。

(3) 99年 秋

- ① Je vais à la gare.    私は駅に行きます。  
② Près de la gare.    駅のそばです。

(ヒント) どちらも oui, non で応じていませんから疑問詞を伴う疑問文が想定されます。

では、実際に聞こえてくる文章は？ CD 06 を聞いてください！ そして、まずは解答してみてください。

どうです？ できましたか。実際は3回聞けますが、ここは同じ問題を2度読み上げました。

(1)は Il est étudiant ? (2)は Tu aimes voyager ? (3)は Où habitez-vous ? と流れます。  
(1)「彼は学生ですか？」は①、(2)「君は旅するのが好き」は①、(3)「あなたは(あなたは)どこに住んでいますか？」は②がそれぞれの答えです。おそらく、聞いても簡単、書かれた文章を見ればさらにずっと簡単ですね。

なのに、正答率を調べてみれば、あら不思議、(1) 53% (2) 59% (3) 47.2%という低調ぶり。約半数の受験生が間違えるわけです。そんなに難しい質問とは思われないのに、なんと不思議です。

その理由を仏検先生と一緒に考えました。すると、流れた文章の意味がつかまえないと、受験生はある反則プレーをする！という結論に達しました。それを公開です！

### (1) 聞こえた 1 語にすがって解答を探すなかれ！

読まれるのは Il est étudiant ?, est の ⟨t⟩ と étudiant の ⟨é⟩ とがつながり (この音のつながりをリエゾンと言います) [イ レ テテュディアン] と聞こえますが、ここで選択肢の étudiant にすがりついて、間違えた番号をチョイスしてしまう!!!

この **単語しがみつ**き が誤答を生みます。Il est ... ? と聞こえれば、②の Si という返答は否定疑問でしか使えないわけですから……つまり、それなら Il n'est pas (plus) などと聞こえてこなければ文法的に辻褃がありません！ 文字を見ながら、冷静に考えればわかる文でも、音を聞くだけだと慌ててしまいます。

### (2) S + V (主語+動詞) を聞きとって、すぐに S + V の選択肢に反応しない！

出だしの ⟨Tu aimes ... ?⟩ だけを頼りに、⟨je + V⟩ と書かれている文章を選んでしまうとこのミスが生じます。選択肢はどちらも oui ですから、疑問文が流れるのは当然です。むしろ、Oui, beaucoup. という選択肢を見たら、あっ！これには **je + V が省かれている** (ここは Oui, [j'aime] beaucoup. という省略) と考えることが必要です。この、⟨Oui, Non, Si + 1 語⟩ という選択肢には注意！そこには“S + V (主語+動詞)”が省かれています。文脈上繰り返す必要がないためです。しかも、ここだけの話ですが (出題者に知れるとまずいかな?), この ⟨返答 + 1 語⟩ パターンが答えになる確率は高い!!

### (3) 疑問詞を聞き落とすな！

où, quand, comment, qui, qu'est-ce que, quel temps, quelle heure など、疑問詞の用いられた設問は必ず出題されます。ですから、この **疑問詞の聞きのがし** はあまりにもったいない。疑問詞は文章の最初か最後に流れますので、それをしっかり聞きとれるかどうかはすこぶる大きな問題です。なお、この解答 Près de la gare. も(2)と同じく S + V が省かれています。J'habite près de la gare. (あるいは Nous habitons près de la gare.) が正式な文章。でも、そう書けば解答がまる見え！、だから設問を作る都合から S + V を省かざるを得ない。当然、解答になる率は高くなる。う〜ん、論理的！

## 数字は、あとに an(s), heure(s), euro(s) (母音で始まる語) などの語が続いた状態でも記憶しておく！

リエゾンやアンシェヌマン（音の結びつき・変化）が起こると、どんな音で聞こえてくるのか、これさえ耳に残っていれば、数字はちゃんと聞きとることができます。

では、CD で、それぞれの音を確認してみましょう！ 単独の音につづいて「年齢」「時」「ユーロ」を添えた音が流れます。あなたも声を出して、続けて!!! ちなみに、フリガナは振りません。CD を聞いて耳に口になじませる。それが目標なのですから！



1	un, une	an	heure	euro
2	deux	ans	heures	euros
3	trois	ans	heures	euros
4	quatre	ans	heures	euros
5	cinq	ans	heures	euros
6	six	ans	heures	euros
7	sept	ans	heures	euros
8	huit	ans	heures	euros
9	neuf	ans	heures	euros
10	dix	ans	heures	euros

11	onze	ans	heures	euros
12	douze	ans	heures	euros
13	treize	ans	heures	euros
14	quatorze	ans	heures	euros
15	quinze	ans	heures	euros
16	seize	ans	heures	euros
17	dix-sept	ans	heures	euros
18	dix-huit	ans	heures	euros
19	dix-neuf	ans	heures	euros
20	vingt	ans	heures	euros

11～16までは「-ズ」と音が聞こえますし、17～19は足し算。それと、1～10までの数字と11～20までの数字の一部は頭文字が連動しています。

ひきつづいて練習問題です。CDと赤シートをご用意ください。

## 2 3人称の単数・複数を聞き分けよう!



男と女のイラストが書かれていて、たとえば Il est japonais. という文章が流れる。これを間違える人はわずかです。また、娘が1人のイラストと2人いるイラストが描かれていて、Il a une fille. と聞こえてくる。これも正答率(得点率)は高い。

でも、正答率のぐっと下がる出題パターンがあります。男性単数 **Il** と男性複数 **Ils**, 女性単数 **Elle** と女性複数 **Elles** の耳での区別を前提とした設問です。単独で発音すれば、それぞれが同じ音 il, ils 「イル」, elle, elles 「エル」ですね。だから、主語だけで単・複を聞き分けるのは不可能! 動詞をそえても、-er 動詞では区別がつかないケースが大半!!

- (1) Il travaille beaucoup. }  
(2) Ils travaillent beaucoup. } 同じ読み

動詞のつづりは違いますが、どちらもカナ発音で書けば「イル トラヴァイユ」で、発音はまるっきり同じ。文脈なしに、ふたつの文章を比べれば、耳では(1)「彼」がよく働く(勉強する)なのか、(2)「彼ら」がよく働く(勉強する)なのか、わからない。ということは……そうです、このパターンは出題されない! 出題できない!!

では、出るのはどういうケースか! そう、動詞の頭文字(母音字)がポイント!!

- (3) Il achète des sacs. }  
(4) Ils achètent des sacs. } 主語と動詞の音のつながりが違う!

これ、音のつながりの関係で(3) [イラシエットゥ...] 「彼はバッグを買う」と(4) [イルザシエットゥ...] 「彼らはバッグを買う」で音に違いが出ます! これ出題のねらいめ! あるいは、-er でない動詞の語尾の微妙な聞き分け。たとえば、

- (5) Elle sort du restaurant. }  
(6) Elles sortent du restaurant. } sort と sortent は同じ発音  
ではない!

## ★★★練習問題★★★



CDを使ってフランス語の文(1)~(10)を2回(実際は3回)ずつ聞いてください。それぞれの文にふさわしい説明はA, Bのいずれでしょうか? イラストなしで(いわば視覚に踊らされないで)ポイントだけをあぶり出す方式で、確実に得点する手だてを耳でさぐりあてましょう。

- (1) A 男か B 女か.
- (2) A 男か B 女か.
- (3) A 息子が B 娘か.
- (4) スーツケースは、A 複数か B 単数か.
- (5) 料理の最中。さて、登場人物は A 1人、それとも B 複数か.
- (6) 自動車の台数は、A 1台、それとも B 複数か.
- (7) 部屋から出て行く人物は A 1名か、B 複数名か.
- (8) A 寒い B 寒くない、さてどっち.
- (9) 猫がいるのはテーブルの A 「上」それとも B 「下」.
- (10) 銀行は A 「駅のそば」それとも B 「駅から遠く」.

流れてくる2つの文の  
違いを聞きわけて！

- (1) Bが答え。流れてくるのは、**Elle est française.**「彼女はフランス人」という文章。コレは正答率が95%を超えます。il est, elle est を聞き違える人は少ないですね。
- (2) Aが答え。**C'est un étudiant japonais.**「彼は日本人の学生です」。これを女性にすれば、**C'est une étudiante japonaise.**となります。〈C'est +人〉という文だと、(1)より正答率は下がり、75%前後。
- (3) Bが答え。**C'est ma fille.**「私の娘です」と流れる。**C'est mon fils.**「私の息子です」との区別。(1)(2)と同じ性の区別だが、fille, fils の聞きとりができれば簡単はず。ただ、正答率は(2)とほぼ同じぐらいです。
- (4) Bが答え。**Cette valise est à toi ?**「このスーツケースは君のですか?」。単数・複数を聞き分けるポイントは**Ces valises sont à toi ?**「これらのスーツケース」との違い。文頭に置かれた語で単数・複数を区別する展開は難しいようで、正答率は50%前後に落ちます。
- (5) Bが答え。**Elles font la cuisine.**「彼女たちは料理をしている」ですから主語は**複数**。**Elle fait la cuisine.** でないと**単数**ではない。**elles font** と **elle fait** では、音が違う。ただ、単独で**Elles font la cuisine.** とだけ流れると解答に窮すようだ。それが証拠に、正答率は65%を切る。動詞活用は、目でも、手でも、耳でも覚えていないとまずいのです！
- (6) Aが答え。**Voilà une voiture.**「あそこに1台車があります」。これを聞き間違うとは思えない。でも、正答率は高くありません。**Voilà des voitures.** とは明らかに音が違うのに。ただし、不定冠詞の[ユヌ]と[デ]だけが区別のポイントなのですが……。
- (7) Bが答え。**Ils sortent.**「彼らは出て行く」と聞こえます。単数の**Il sort.**ではありません。でも、前者だけ聞くと区別がつきにくい。70%を切る正答率。
- (8) Bが答え。聞こえてくるのは**Il ne fait pas froid.**「寒くない」。この文章を聞き間違えるとは思にくいのですが、Aのイラストが男性でBが女性だと、聞こえてきた**il**を「彼は」と考えるミスが生じかねません。というわけで、65%に満たない正答率です。
- (9) Bが答え。**Il y a un chat sous la table.**「テーブルの下に猫がいる」と流れます。**sur la table** との区別は意識して練習しておかないと誤答が生まれます。
- (10) Aが答え。**La banque est près de la gare.**「駅のそばにある」を選ぶ。駅から遠く**loin de la gare**にある銀行は不便ですもの……。